

チーム名	筑波大学都市計測実験室	大学名・学部	筑波大学理工学群社会工学類	福島復興ステージ
プラン名称	私も津島もオフグリッド ～自然とテクノロジーの村、みんなの津島から～	メンバー名	青木日花、佐藤佳乃、飛田晴哉	
リーダー名	田村侑介			
指導教職員名	大澤義明			

全国の過疎地域に応用可能で、津島と日本の未来のための、観光にとどまらない“まちづくり提案”

問題意識 今は復興の在り方の**転換期**

データから

滞在人口に占める地元住民の割合
(モバイル空間統計より)

浪江町: 79%
双葉町: 16%
大熊町: 40%
富岡町: 59%

福島県平均: 73%
コンテスト対象地12市町村平均: 63%

地元住民が少ない

対象: 福島県内の人口1万人以下の自治体
2020年実測人口: 国勢調査(2020)
2040年目標人口: まちひとしごと人口ビジョン(2015-2020)

浪江町 (実測: 1923人, 目標: 8000人)
楢葉町
飯館村
富岡町

一方で政策(目標人口)は多く見積もる

現場から

UR都市機構東北震災復興支援本部
2023/7/4@いわき市

ハード整備は進んでいるが、思うように人が戻らない

双葉町産業交流センター
2023/7/3@双葉町

一方で、政策(復興計画)に基づき着々と建物整備が進む

現状と政策の乖離=“背伸び復興”

これからは無理をしない“身の丈復興”へ
今は**転換期**を迎えている

これから復興が始まる浪江町津島地区で、既存ストックと最先端技術を活用しながら最小限の介入で持続可能なまちを目指す

新規性

- ①オフグリッドによるアナログとデジタルの融合
単に新しいことを始めるのではなく、地域の資源を生かしている
- ②観光にとどまらないまちづくりの視点からの持続可能な提案
津島地区の将来を見据えて今できることを提案
- ③浜通りの被災地・全国の過疎地への拡張性を見込む
津島地区をモデルとすることで地域に還元し、日本の未来に問いかける

問題解決のための提案 浪江町津島地区における水素を活用した電力オフグリッド

自然

津島が持つ自然の力 川の標高差を利用する
請戸川とその支流 **小水力発電**

テクノロジー

小水力発電で生み出す **水素**

もともとコンパクトな都市構造を生かし、電力を自給自足

津島の持つ自然から取り出すエネルギーとテクノロジーを掛け合わせ、浪江町が利活用を推進している水素を使ったオフグリッドを提案

津島で電力オフグリッドをする意味

- ・人口が激減した津島地区で、外部と結ぶ電気インフラの維持管理コストを削減
- ・コンパクトな都市構造を生かし、すでに除染された範囲内で実現できる
- ・人口減少の課題先進地である津島が全国の過疎地域のモデル事例になる

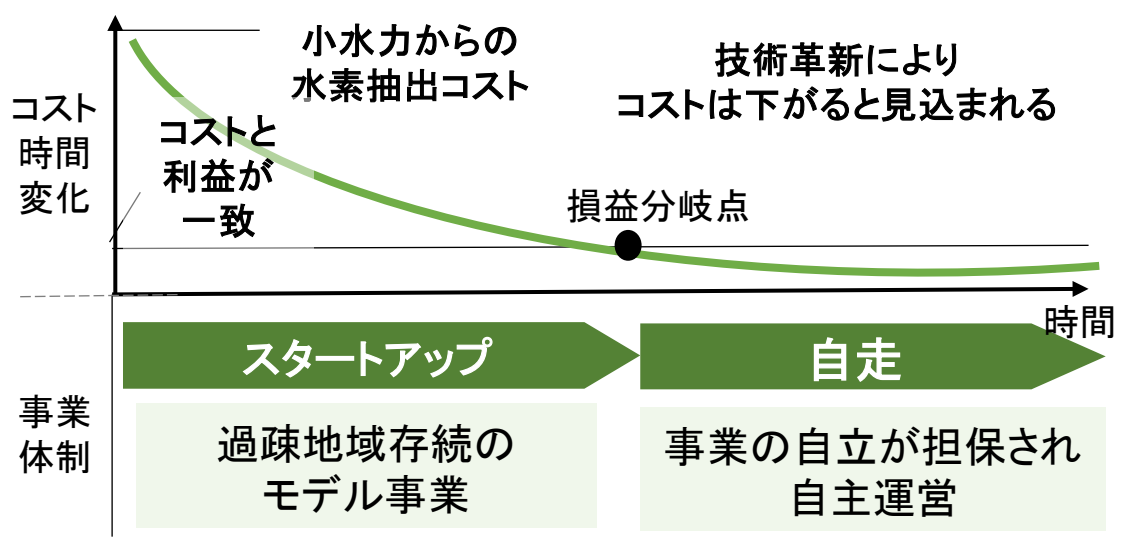
津島で提案する観光プラン 私も津島もオフグリッド

津島で行われる先駆的なオフグリッドの取り組みを身をもって体感するオフグリッドされた津島に身を置くことで自分自身を日常からオフグリッドし、いつもの場所から切り離され、ありのままの自分を見つめなおす



水素自動車から供給する電力でオフグリッドされた快適なアウトドアの非日常を体験！

実現計画と効果



津島を過疎地域のモデル地区へ

津島の存続 ≡≡≡ 浜通りの存続 ≡≡≡ 全国の過疎地域の存続のカギ